
スポーツを通じて

子どもの未来を豊かに！

～学校運動部活動の不適切指導をなくそう～

第1章 プロジェクトの概要

1. プロジェクトの名称

スポーツを通じて子どもの未来を豊かに！
～学校運動部活動の不適切指導をなくそう～

2. プロジェクトの目的

本プロジェクトは、学校運動部活動指導の現状と適切な指導のあり方を考える講演会を実施し、教員として備えておくべき資質を学内に広めるとともに、アンケート調査を実施し、不適切指導に関する意識および実態を明らかにすることを目的とする。

3. 代表者および構成員

・代表者

大月菜穂子 保健体育専修 1回生

・構成員

有光幹太 社会領域専攻 3回生

笠井美佳 英語領域専攻 1回生

北澤沙耶 体育領域専攻 1回生

田口佳歩 体育領域専攻 1回生

3. 助言教員

小山宏之講師（体育学科）

第2章 内容や実施経過など

1. プロジェクトの活動

(1) 主な活動

平成26年7月16日（水） 講演会開催

（中京大学 近藤良享先生）

7月16日（水） 学生の意識調査

(2) 活動の目的と取り組み

ここ数年、スポーツ指導における不適切指導が社会問題となっており、特に学校運動部活動における体罰問題があげられる。この問題は、将来教員を目指すわたしたちに身近なものであり、スポーツ指導の現状と今後のあり方を理解するとともに、教員を志望する学生のスポーツ指導に関する意識を知る機会を設けることを目的として、本プロジェクトで講演会を実施した。

7月16日（水）に開催した講演会では、中京大学の近藤良享先生に「大学体育における体育会活動～体育・スポーツ指導をめぐる暴力とハラスメントに関する諸問題～」のテーマのもと、スポーツ指導の現状を講演していただいた。同時に、本学学生のスポーツ指導の経験や講演による意識調査を行うために、学校運動部活動指導に関する学生の意識調査を講演会と同時に、参加者に対し実施した。

本プロジェクト実施にあたり、平成26年6月から活動を行い、6月中に講演者の選定と調整を行った。

スポーツを通じて子どもの未来を豊かに！
e-Project mini @ kyokyo

大学生活における体育会活動 ～体育・スポーツ指導をめぐる暴力と ハラスメントに関する諸問題～

講師
中京大学教授
近藤 良享 氏

ドーピング、運動部活動、暴力、体罰、ジェンダー、判定問題などスポーツ界が抱える諸問題をスポーツ倫理の観点から広く研究されている

近藤 良享 教授
スポーツ倫理学のみを専攻に専修する
研究者は、日本で唯一、ドーピング、
運動部活動、暴力・体罰、ジェン
ダー、判定問題など、スポーツ界が抱
える諸問題をスポーツ倫理の観点から
解決を目指す。
中京大学ホームページから引用
<<http://nc.chukyo-u.ac.jp/gakubu/zemi/kyougi.html>>

7月16日〔水〕
13:00～14:30 **入場無料・申込不要**

D3教室
問い合わせ先
代表者：大月菜穂子（教育学研究科M1）
dn45064@kyokyo-u.ac.jp

写真 1 講演会ポスター

6月から7月にかけて、体育学科のホームページで講演会開催の宣伝を行うとともに、体育会と協力体制をとり、体育会所属学生の参加を促し、すべての体育会所属の運動部活動から2名以上の参加を呼びかけた。さらに、学生課掲示板、体育会掲示板、体育会ボックス、トレーニングセンターにポスター(写真1)を掲示するとともに、食堂においても三角柱看板を設置し(写真2)、体育会非所属の学生への参加も呼びかけた。また、授業においてはスポーツクラブ指導入門の受講学生の参加を促し、さらに学外から京都市の現職の高校教員の5名程度の参加もあり、150名を超える参加があった。



写真2 食堂用三角柱看板

第3章 結果や成果など

1. 講演会内容

場所：D3 講義室

時間：13:00～14:30

近藤先生による講演会では、充実した学生生活を送るために2つの点からお話があった。

まず1つ目に、「事件・事故に巻き込まれないために」という内容で、大学生の事件や不祥事についての紹介があった。事件や不祥事によっては体育会が廃部や解散に至る可能性もあり、個人の責任だけでなく連帯責任にもなるため、一人ひとりが大学の代表であるという自覚をもってほしいということであった。また、大学生としての甘えをなくすという責任感をもつことや、自己管理能力を高め

る努力することで、充実した学生生活を送ってほしいというお話を聞くことができた。大学のクラブに所属しているという帰属意識をもつことの必要性を考えることのできる内容であった。

2つ目に、「部活動の体罰問題を考える」という内容であった。近年では体罰が社会問題化しており、部活動において暴力・体罰問題が起こる要因として、教員が一生懸命になりすぎてしまうということが考えられる。また、近藤先生が体罰について調査したものでは、「時には体罰・暴力が必要である」と考えている人が少なからずいるということも問題であるということである。この調査なども踏まえ、部活動において体罰や暴力なしで指導できる方法を考える必要がある、それが教員の使命であると考えられている。また、できること、わかること、教えたり説明できるということが指導能力であり、専門性をもった指導者であるが、大半の顧問教員は指導経験がほとんどなく、無免許運転と同じである。このことを理解し、一歩も二歩も下がって指導に当たることが必要であるということであった。

指導者がよい選手を育てるためには、指導者は口を出さず、「待つ」指導をすることが重要であり、生徒・選手第一で、自主性を高める指導を行うことによって、暴力や体罰がなくても良い生徒・選手を育てられることができるということであった。

講演の中には部活動だけでなく、民間スポーツクラブ等の実際の体罰の映像も流れ、衝撃的なシーンに動揺している学生もみられた。



写真3 講演会の様子 (近藤先生)

2. アンケート結果

回答者 150 名

(1) 講演会参加者について

①参加者の所属学科

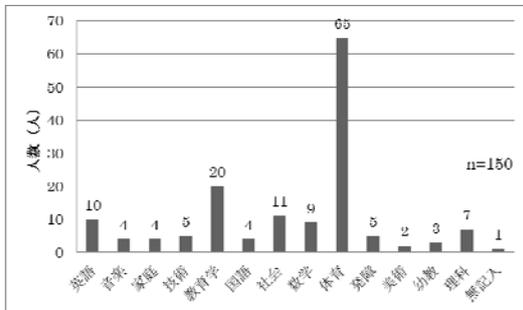


図 1 参加者の所属学科

②参加者の回生

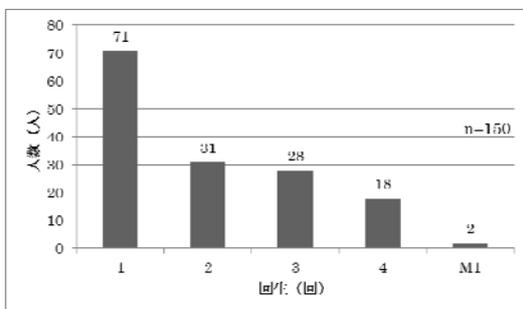


図 2 参加者の回生

③参加者の男女数

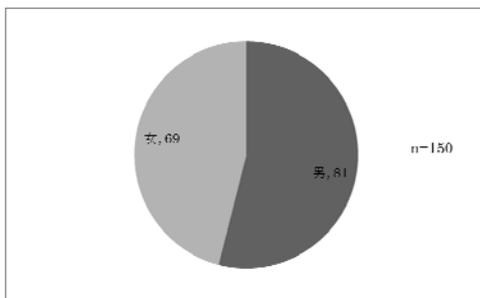


図 3 参加者の男女数

④所属クラブ

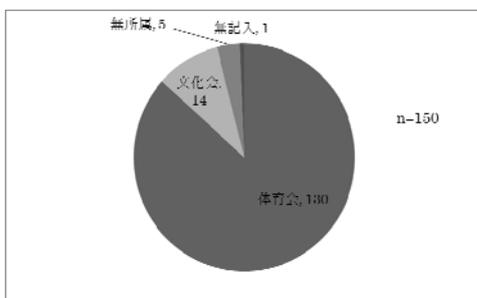


図 4 参加者の所属クラブ

体育学科からの参加が多かったが、他学科からも数名ずつの参加があり、全学科の学生が参加していた。スポーツクラブ指導入門の受講などもあり、1 回生からの参加が多くみられたが、他回生からの参加も約半数あった。また、体育会所属クラブへの呼びかけや体育会掲示板等のポスター掲示もあり、体育会クラブ所属の参加がほとんどであったが、文化会クラブ所属や無所属の学生の参加も得られ、学生課掲示板や食堂での呼びかけ効果が得られた。

(2) 講演会の内容に関する質問

①内容について

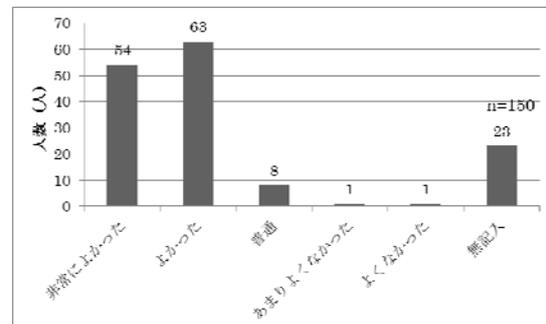


図 5 講演会の感想

非常によかった、よかったの回答が多く、本講演を通して、スポーツ指導のあり方や教員としての資質を考えることができるきっかけになったと考えている。

②印象に残った点、学んだ点など

講演会の内容について、体罰の映像に衝撃を感じた学生が多くいた。講演内容と映像から、「指導者は選手の自主性を尊重し、待つ指導をすることが大切だと感じた」ということや、「生徒・選手に課題を与え、競技だけではなく指導者の責任として、指導に関しての知識を身に付ける必要がある」といった回答が多くみられた。また、「指導者は無免許運転と同じ」という近藤先生からの言葉が印象に残ったという回答も多く、「スポーツをしている中で、指導者としては素人という点につい

では考えたことがなかった」という記述もあったことから、学生自身が将来先生になったとき、部活動の顧問になったときにどのように指導していけばよいかを考えるきっかけになったと感じられた。

一方で、講演内容が学生向けというよりも指導教員向けの内容であると感じた学生もあり、生徒と教員間の関係性づくりについて対話が必要であるということや、日本では特に指導者を敬い過ぎて言いなりになる態度が生徒側にあるという考えもあった。



写真 4 講演会の様子

(3) 指導に関する質問

①暴力やハラスメントなどの指導の経験

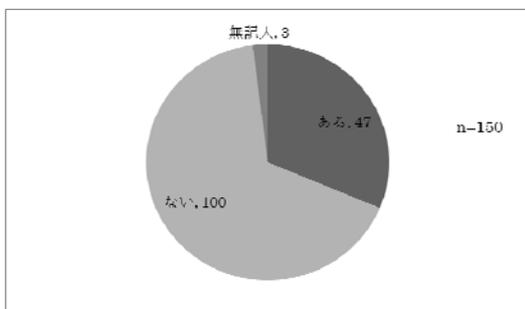


図 6 暴力やハラスメントなどの指導の経験

②過去に受けた暴力・ハラスメントの解釈

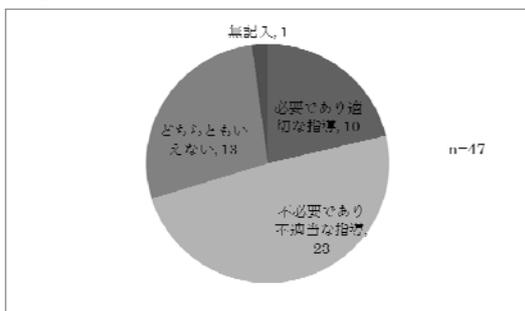


図 7 過去に受けた暴力・ハラスメントの解釈

講演会参加者の約 3 分の 1 の学生が暴力やハラスメントを受けた経験や、仲間が受けている場面を経験したことがあるという回答が得られ、体罰問題はより身近な問題であったことを強く感じさせる結果であった。

③暴力等経験者の受け方

自身が受けた暴力や仲間が受けた暴力について、不必要であり不適切な指導であると感じた学生が半数ほどであった。それには、ミスをした選手にボールを投げつけていた、顧問の腰をマッサージさせられた、寒い中一時間立たされた、突き飛ばされたなどの回答が得られた。一方で、必要であり適切な指導であったと感じた学生もあり、その回答に関して、具体的には他人に迷惑をかけていたから、本気で競技に取り組めていなかった、練習をさぼってお菓子を食べていた子がいたから、練習メニューがこなせなかったときに叩かれた、大事な大会でケガをしてチームが負けてしまったときに平手打ちをされた、ミスをした際に平手打ち、お腹を蹴るなどを連続 30 発されたといった回答が得られた。

このような内容の中には、生徒自身に問題がある場合も含んでおり、どちらともいえない、適切な指導であったと感じていた学生もいたと考えられる。

④現在の指導における考え方

暴力やハラスメントが依然行われている現在において、社会的な背景として、指導者が競技をしている際に指導者から体罰を受けてきたという経験や、勝利至上主義という考えが残っていることによって、いまだ暴力やハラスメントがなくなることはないだろうと考えている学生が多いことが明らかになった。昔の風習が残っており、指導者も暴力やハラスメントを受け育ってきたからであると感じている学生が多くみられ、勝つことにこだわりすぎる先生が多いこと、指導力や知識不

足・体罰に頼らなければ指導できないのではないかといったことも、原因のひとつであると感じている学生もいた。中には、そもそも暴力やハラスメントを甘受する環境があるからであると思うといった感じ方をしている学生がおり、現在のスポーツ環境に原因があると指摘していた。このように、指導者自身の問題だけでなく、スポーツにおける環境や社会にも問題があるということも感じていた。

また、指導者育成システムが充実していないこと、教員養成課程において、運動部活動指導を学ぶ場が設定されていないといった回答もあったが、本講演会により体罰についての現状や指導について学ぶことができ、学生自身の今後のスポーツ指導に生かされるきっかけになったのではないかと感じた。



写真 5 講演会の様子

第4章 まとめと反省、今後の展望など

1. まとめ

本プロジェクトの目的は、学校運動部活動指導の現状と適切な指導のあり方を考える講演会と学生の意識調査を実施し、教員として備えておくべき資質を学内に広めるとともに、アンケート調査を実施し、不適切指導に関する意識および実態を明らかにすることであった。

本プロジェクトを通して、150名を超える講演会の参加があり、近藤先生の講演によって、部活動指導における体罰問題の現状や、適切な指導のあり方を多くの学生が学ぶことができたと感じている。

講演会の内容とアンケート調査からは、本学学生の実態について、体罰の経験がある学生が講演会参加の約3分の1程度おり、いまだ体罰がなくなっていない現状も明らかになった。体罰の映像や近藤先生の指導のあり方を聞くことによって、将来指導者になる可能性のある学生が、指導者はどうあるべきか、どう指導すべきかを考えるきっかけになり、将来教員になるための責任と自覚を感じた学生が多くいたように感じる。一方で、体罰を受けたことがある、または他人が受けている場面を見た経験があると回答した人の中には、その指導が必要であり適切な指導であったと感じた人も数人おり、どのような理由であっても、暴力や体罰は行われてはいけないう認識を持たせる必要があると感じた。

2. 今後の展望

今後は社会の現状を踏まえて、教員養成大学の学生として指導方法など学ぶべきことを考えていくことが必要であるといえる。また、体育科のみならず、他学科の学生も含め大学全体として、授業の中で体罰の問題などを社会的な問題の一つとして取り扱う必要性があると考えられる。

今回の講演会参加者は、ほとんどが体育会所属クラブの学生であったため、体育会クラブだけではなく、文化会クラブなどの学生にも学校運動部活動の現状を理解してもらい、将来教員になる学生に教員としての資質を備えられるような機会を設定していきたい。

大学体育における体育会活動
～体育・スポーツ指導をめぐる暴力とハラスメントに関する諸問題～
講演会アンケート調査

*調査結果から個人の特定など情報を公表することはありません。ご迷惑をおかけすることはありませんので、ありのままを回答して頂くようお願いいたします。

Q. ご自身について、以下についてお答えください。性別およびクラブ活動所属の有無は○を付けて下さい。

学科	()	学年	()
性別	男 女	所属クラブ	体育会 文化会 所属していない

1. 講演会に関する内容を質問します。

Q1. 今回の講演会の内容についてあてはまるものに○をつけて下さい。

非常に良かった 良かった 普通 あまり良くなかった 良くなかった

Q2. 今回の内容で印象に残った点、学んだ点について自由に記述して下さい。

2. 体育・スポーツ活動、文化会活動等における指導に関する質問をします。

Q3. 過去に暴力やハラスメントなどの指導を受けた経験がある。また、仲間が受けている場面を経験をしている。あてはまるものに○をつけて下さい。

ある ない

Q4. Q3であると答えた方に質問です。その指導についてあてはまるものに○をつけて下さい。

必要であり適切な指導であった 不必要であり不適切な指導であった どちらとも
いえない

Q5. Q3であると答えた方に質問です。具体的にどのような指導でしたか？書ける範囲で記入をお願いします。

例) 高校の部活動で、試合や練習でミスをした際に、顧問教員によって平手打ちを度々されていた。

Q6. 現時点において体育・スポーツ・文化会活動における暴力やハラスメントは以前行われているようである。その原因はなぜだと思えますか？